

スリランカ地域社会における新興呪術師

J.A.Nandana Jayakody

はじめに

スリランカのシンハラ社会における民俗宗教は仏教と仏教流入以前からスリランカに存在していたアニミズム的な信仰や宗教との複合によって形成されているといわれている。〔Mahavamsa. 1960〕インドから伝えられた経典的・制度的な仏教の目標は来世での良い生まれ変わり、あるいは輪廻から解放されることで、人々の現世利己的な面においてあまり関与することはない。これに対して、民俗宗教における神々や霊的な存在は人間の日常的な問題を解決するために機能している。本研究で取り上げる「呪術師（カプマハターとグルンナーンセ）」は神霊と人間の媒介者として儀礼を行い、神霊の助けをもとに人間の悩みを解決してくれる。しかし、時代の流れにより、この神霊や呪術師あるいは儀礼内容に変化が現れてきている。現在、スリランカの地域社会ではアールダカプマハタというこれまでいなかった新しい種類の呪術師が出現し、彼らによる新興呪術儀礼が広がりを見せつつある。アールダカプマハタというのは代々から受け継がれてきた呪術的知識は持っていないが、体に憑いている死霊の能力でクライアントの悩みを理解し、必要な儀礼を行い、悩みを解決できると思われる呪術師である。従来の呪術師がいるのにもかかわらず、なぜ、この新興呪術師が出現し、広まっているのか、彼らの存在と彼らによって行われる呪術的儀礼の特徴は何か、あるいはそれらの

社会的必要性は何なのか、これを究明することが本研究の課題である。

本研究では参与観察を用い、現地調査を中心にデータを収集するという文化人類学的方法に基づいて問題を分析する。研究対象になっているのはスリランカ南部のアンバランゴダ市に位置しているイハラキリペーッダという村落とその周辺である。(図 I)

村落の情報

家族数:382、戸数:311、人口:男(602人)女(661人)合計:1263人、宗教:仏教(1250人)キリスト教(13人)、民族:シンハラ人(1263人)、教育:中学卒業(1000人)高校卒業(71人)現在大学在学中(6人)大学卒業(8人)、職業:農業:(579人)公務員:(42人)会社員:(236人)自営業:(21人)〔Census of Population and Housing. 2001〕

本研究においては研究対象地域における(独立後から現在まで約60年間の)経済、社会、宗教的背景やその変容、村落社会の人々の生活様式の変容、呪術的儀礼の変容を取り上げる。

歴史的な資料によると、スリランカにおける呪術的儀礼の歴史は紀元前3世紀までさかのぼることができる。古代シンハラ王国に関する史書『マハーヴァンサ』によると、紀元前3世紀にスリランカでは仏教が広まったが、それ以前数多くのアニミズム信仰があったとされている。〔Mahavamsa. 1960〕それ以外の

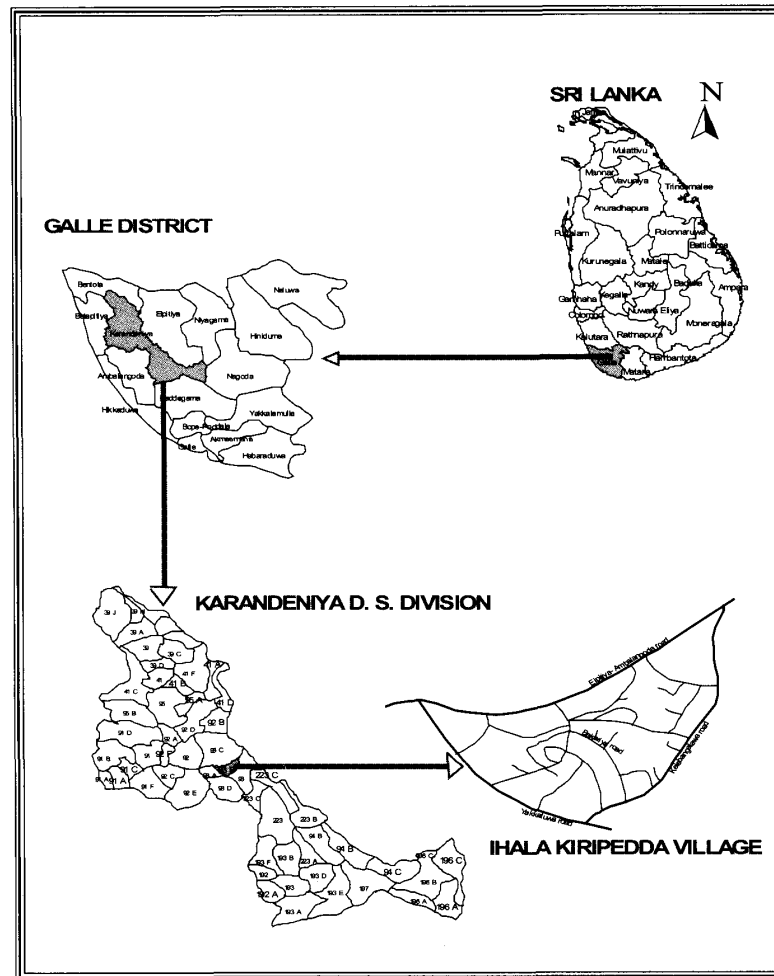


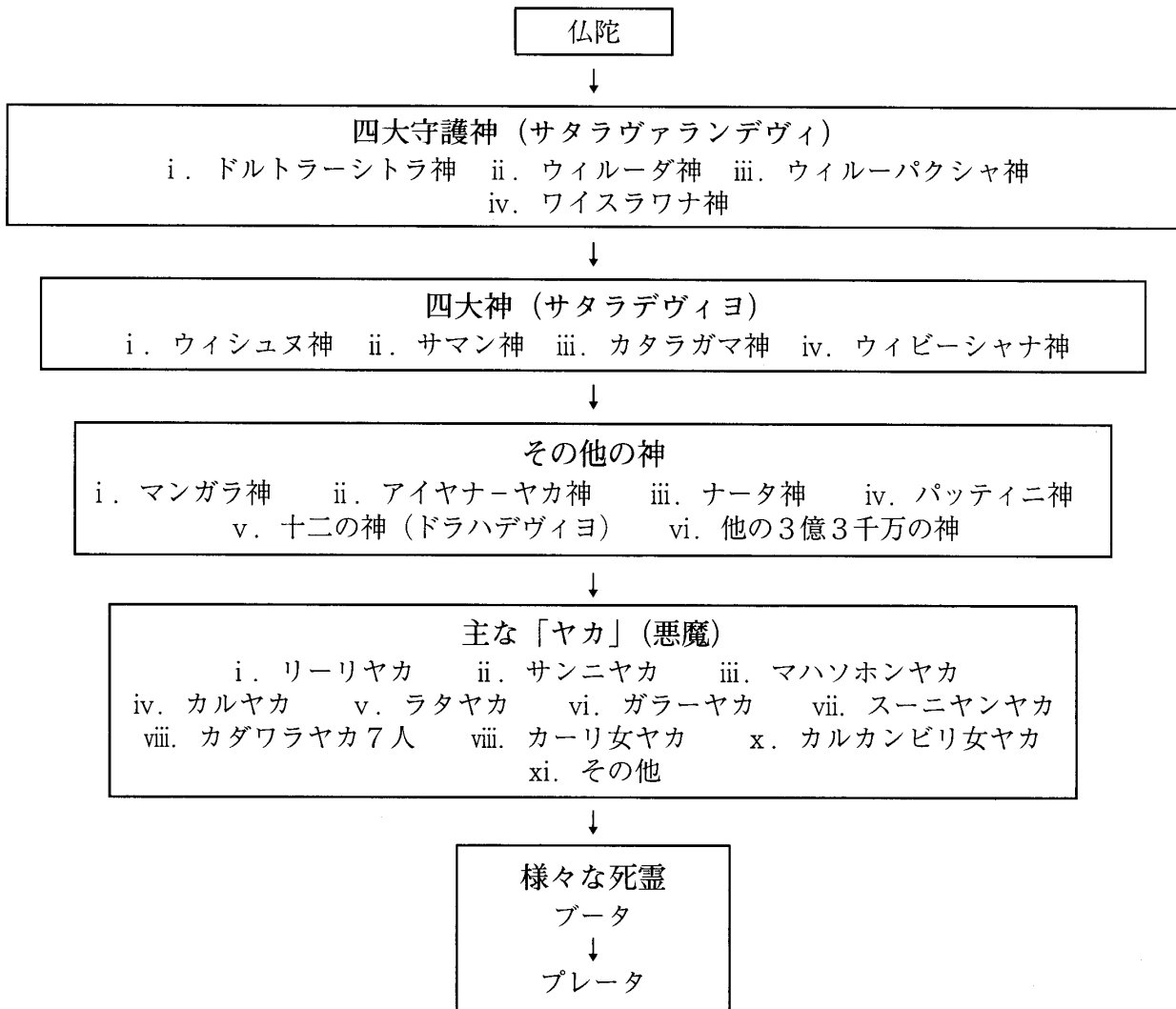
図 I 調査地

仏教が伝えられる以前からあった数多くのアニミズム的な性格とそれに関する様々な行事を Paranavitana が調査によって明らかにしている。〔Paranavitana, S. 1929〕彼はアニミズム的な性格とそれに関する行事は同じ時代にインドにも広まっていたものなのでアーリア人によってスリランカにも伝えられたと考えている。仏教にもこのアニミズム的な性格が入り始めたのはインドからスリランカに伝えられる前からであり、釈迦が悟りを開いたといわれる菩提樹に感謝し、祈願する習慣もインドからもたらされた。

現在スリランカ地域社会の日常生活と密着している神霊として神々、悪魔、ブータやプ

レータといった死霊があげられる。民俗宗教の中におけるこの神霊の位置を調べると、釈迦がその頂点に立っていて全ての神霊を支配していることが明らかになる。その下の段階にいる神々が悪魔や死霊を支配している。(表 I)

スリランカの民俗宗教における呪術的儀礼は2種類で、1つは神々(デヴィヨ)を中心とする儀礼であり、もう1つは悪魔や死霊(ヤカやプレータ)を中心とする儀礼である。両者には、病気を治すなど個人的な目的で行われる儀礼と村や地域の無病や安全とその地域の豊饒を祈願するなどの集団的な目的で行われる儀礼がある。



表I スリランカの民俗宗教における神霊の序例

i. 神々に関する儀礼

シンハラ人の信奉する神々（デヴィヨ）は南インドに由来するヒンドウ教的な神々が仏教的な世界観のなかに包摂されたものである。19世紀になるとシンハラ社会で信奉される神々の数はかなり多くなっている。神々に関する儀礼は、踊り、歌、マントラや供え物で神々に感謝を表し、村落や地域の無病や安全または豊饒を祈願するガンマドヴァなど大きな儀礼から、マントラで唱え、神に祈願した糸を人の手首や首に巻くことによって無病息災を祈る小さなヌールベディーマ儀礼まで

神々に関する儀礼は様々である。神々に関する儀礼を行う、あるいは人間と神々との間の媒介者として活躍する従来よりの呪術師はカプマハタと呼ばれる。

ii. 悪魔（ヤカ）に関する儀礼

ヤカ（悪魔）とは、神々とは別の悪霊的な存在であり、神々に比べれば低位に位置付けられる、人間に不幸や病気をもたらす霊的存在だが、人間に幸福をもたらす悪魔もいる。呪術的な力でヤカを雇うこともできると信じられている。数多くのヤカの宿っている

所は木々、森、水の流れ、山、十字路、墓、古く孤立した家、人通りのない道などであり、人間がその悪霊に見入られるディスティ(Dishiti)が特定の人間に向けられると、取り憑かれ、病人になると信じられる。ヤカに関する儀礼を行う、あるいは人間とヤカとの間の媒介者として活躍する従来よりの呪術師はグルンナーンセあるいはヤケドラと呼ばれる。

iii. 死霊(ブータ/プレータ)に関する儀礼

ブータとは、生前特に悪い行いをしなかったことから、死後から生まれ変わるまでの間神々やヤカあるいは他の霊的な存在と交流できたり、または、人間の世界にいる親戚を見守り、助けることができる状況にいるものである。また、プレータというのは、生前悪行をしたため死後から生まれ変わるまでの間、飲食や服もなく、悪臭を放ち、他の神霊や人間に嫌われる大変苦しんでいる存在である。人間の世界にいる親戚を病気にさせたり、驚かせたり、食べ物に砂を入れる、屋根に石を投げるなど迷惑なことばかりする。プレータやブータ状態にある死霊に呪術的な力を加えることで、人間を苦しませることも助けることもできると考えられている。

スリランカの民間信仰には、人間を苦しめる様々な病気を司るヤカやプレータが数多く存在し、それぞれのヤカやプレータを追い払い病気を治す儀礼も様々である。グルンナーンセあるいはヤケドラはプレータやブータに関する儀礼を行うあるいは人間とプレータやブータとの間の媒介者として活躍する呪術師である。

こうした従来からあった儀礼は、植民地支配後の近代化によってさまざまに変化してき

た。例えば、観光開発と共に外国人の興味を引くように儀礼のある場面に手を加え、ショーとして行われるようになったものもある。この変化した場面が、逆に従来から行われてきた儀礼に入り込むという事態も起きている。儀礼に使われる仮面も、おみやげ品として作られるようになってから、そのデザインなどが変わりつつある。本研究でとりあげるのは現在の呪術的儀礼の目的、構成、内容に大きな変化を及ぼした1970年代以降に出現しはじめた新興呪術師(アールーダカプマハタ)である。

ルーパーナンダによるアールーダカプマハタになるまでのライフヒストリー

アールーダカプマハタという存在を理解するためライフヒストリー的手法を用い、その個人の生活の細部にわたって記述し、分析する。その例としてマダクブラ村にデーヴァーラヤ(小祠)を経営しているルーパーナンダカプマハタ(44歳)という人物を取り上げる。ルーパーナンダはリーリカダヴァラという強力なヤカ(悪魔)の協力で悪人を厳しくこらしめる特徴を持っており、それ以外スーニヤム神やパッティニ女神を中心とした様々な神霊の協力でクライアントの様々な悩みを助ける能力を持っている。

ルーパーナンダは姉1人3人兄弟の次男として1959年カランデニヤに生まれ。ルーパーナンダが1歳になる前に母が蛇に噛まれ、死亡。その次に2歳になったばかりの姉が突然口から血を流し、死亡した。ルーパーナンダの母の弟(叔父)は母が死んでから実家の土地をルーパーナンダ家族に分配せずに自分のものにするため叔父はルーパーナンダの家族を追い出そうとした。叔父はルーパーナンダ

の父親に無理やり酒を飲ませたり、暴力も振ったりしたのでそれに耐えられない父は家出をした。

ルーパーナンダの母親の死亡後、叔母は結婚せずルーパーナンダと兄弟の面倒をみた。祖母も手伝った。しかし、叔父はそれに反対で子供を見るたびに殺してやればいと叫んだ。ルーパーナンダの母の母親（祖母）は家の近くの道沿いに駄菓子屋を開き、叔母は手提げや莫塵を作り子供の養育費をまかなった。祖母が家族に起こっている災いに関してアールダカプマハタを訪ねた時、家族を崩壊させるために、誰かに掛けられたコディヴィナ¹⁾が掛けられていると分かった。そしてコディヴィナケピーマ儀礼²⁾を行うことにした。しかし、その儀礼の最中で儀礼の大切な部分である1日中呪文をかけられた牛の頭の骨を切るという場面を行うことができなかった。儀礼を完成するとコディヴィナを掛けた叔父に罰が当たるので、骨を叔父に盗まれたためである。

ルーパーナンダは、入学以前からときどき体の震えることや、夢でヤカや幽霊を見て驚くことが多かった。ルーパーナンダはヤカを信じていなかったが、学校を止めてからも似たような夢を見ることが多かった。ある時目が覚めた後もお腹の上にヤカが座っているように見えるようになった。ヤカは豚肉を食べる人を嫌うので、豚肉を食べると夢でヤカを見ないようにになると友人に教えられたことがあるが、家では豚肉を食べなかった。

ルーパーナンダは仕事がなく、収入も少なかった。そのため、タナマルヴィラ市周辺に畑仕事が多くあるので一緒に行くように友人から誘われ、家出をした。タナマルヴィラ周辺に豚肉が盛んにあるといううわさもそこに掛けるきっかけだった。3人は畑手伝いの

仕事を見つけた。思った通り豚肉カレーとコーンを食べてから仕事は始まった。そこでは1ヶ月ぐらいしか仕事をしていないが、虎や熊または象に追いかけられたりなど、いまだに忘れられない思い出が多い。

ルーパーナンダがタナマルヴィラに長くいらなかった原因も豚肉である。豚肉を食べたある日の夜、腹痛になり、伝統医薬を飲みながら様子を見たが痛みがひどくなるばかりで家に戻った。祖母と叔母はルーパーナンダが戻るように様々な儀礼を行った結果、ルーパーナンダが戻ってきたのだと喜んだ。しかし、ルーパーナンダの腹痛はひどくなり、周辺の病院で手当てを受けたが治らず、ゴール市の病院に移行して入院し、手当てを受けた。しかし、寝られない。寝ようとするとお腹の上にヤカが座っているのが見えるからである。祖母に説明すると、周辺のグルンナンセ(ヤカに関する儀礼を行う村落の従来の呪術師)を病院に連れてきた。彼の意見によると、ルーパーナンダは豚肉を食べる時、ヤカを見かけてタニカムドーサ³⁾にかかっているので、スーニヤムバーガヤ儀礼を行えば治る。入院4日目、無理やり退院させられたルーパーナンダは、家に運ばれ、スーニヤムバーガヤ儀礼を行い、唱えられた薬を飲んで2、3日たったが治らず、ルーパーナンダは自殺することまで考えた。

儀礼の4日目、信じられない事が起こった。昼12時ぐらい便所(シナモン畑)に出掛けて帰って来る途中、母親のお墓の前を通ると、突然母の墓が大きな音で割れ、その割れ目から直径30センチほどの太さで5メートルほどもある長い赤い針金2本が煙と共に出てきて、ルーパーナンダの首をしめた。その後のことは何も分からない。口から白い涎を流しているルーパーナンダを、周辺にいた友人が家に

運んだ。急いで周辺のカプマハタ（デヴィヨに関する儀礼を行う村落の従来の呪術師）が呼ばれた。ルーパーナンダを調べ、ヌールベディーマ儀礼を行った。カプマハタの治療でルーパーナンダの腹痛は弱まった。カプマハタはルーパーナンダの状況は病気ではなく、ルーパーナンダを助けるために体に憑いている（アーカルシャナヤ）死霊の影響だと語った。その死霊を大事にし、それに従えば幸福になれると指導した。ルーパーナンダに憑いている死霊は良い死霊で、肉食キリ（穢れ）にかかると肉を食べると罰が当たり、苦しめられるとカプマハタが語った。しかし、ルーパーナンダはアーカルシャナヤが嫌いだった。口から涎を流し倒れて恥ずかしい思いをしたからである。

ルーパーナンダはマダクブラ村落にいる性格の良い人だと村人にほめられた。アベナンダとスリヤーナンダは酒を飲んだり、犯罪で警察に捕まえられたりしていた。ルーパーナンダがカランデニヤ高校に通っているクスマヴァティに出会ったのはその後である。

クスマヴァティとの関係において最悪の影響を与えたのはルーパーナンダに憑いているアーカルシャナヤ⁴⁾である。クスマヴァティと話をしているとき口から涎を流し、倒れることがいくつもあり、母親と姉がまた結婚に反対することになったが、クスマヴァティはルーパーナンダと結婚することに決まっていた。ルーパーナンダは自分が時どき倒れることの背景をクスマヴァティに説明した。

ルーパーナンダのアールーダヤに関する最初の事件が起きたのは彼の18歳の時である。友人の結婚式の手伝いに行って、夜そこで寝泊まりしていたルーパーナンダは夢で怖い顔したヤカを見た。そのヤカはルーパーナンダの家の台所の側にある岩の下に全家族に災い

を起こしているコデイヴィナがあるので早めにそれを取るように命令した。ルーパーナンダはそれを気にせずに寝ようとしたが、ヤカは刀を首に指し、「取らないか」と叫んだ。驚いたルーパーナンダは「取ります」と大声で叫び、皆を起こした。ルーパーナンダはアベナンダに夢のことを説明した。朝4時ぐらいだったが、アベナンダはすぐルーパーナンダをつれてコデイヴィナを探しにいった。二人でヤカに説明された通り掘ってみると、小さなビンが見つかった。

ルーパーナンダは19歳でクスマワティが妊娠してしまったので祖母と相談後結婚し、ルーパーナンダの家につれて来た。幸いに祖母と叔母はクスマワティを好きになった。夫婦生活を始めてから1ヶ月も経たないうちに、またルーパーナンダの体の調子がおかしくなった。1日6回ぐらい口から涎を出し倒れた。原因は豚肉が入ったソッセージを食べたせいだった。周辺のグルンナーンセを呼んで診察してもらい、スーニヤムバーガヤ儀礼を行った。儀礼の後2週間ぐらいまでルーパーナンダの病気が治まっていたが、また口から涎を出し、倒れ始めた。ある日そのように倒れたルーパーナンダは突然恐ろしい顔をして立ち上がった。そして、自分がリーリカダワラというヤカの霊だと叫び、赤い花、ランプ1つ、ご飯粒3個とナイフを準備するように命令した。周辺にいたアベナンダは命令に従い準備した。ルーパーナンダはしばらく静かに神を拝み、急に体が震えだした。ナイフを取り、自分の胸と舌を切り、でてくる血で御飯を濡らした。そしてその御飯と花の前にランプを置き、拝み始めたがその言葉は誰にも分からない。

ルーパーナンダはその日から毎日お昼あるいは夕方、血を出しリーリカダワラに供える

行動を続けた。アベナンダはその儀礼のためココナツの葉で小さな小祠を建て、その中に神棚を作り、毎日必要な供物を準備した。

ある日の夕方、ヤカに捧げた後、ルーパーナンダは次のように語った。(ここでルーパーナンダの体に憑いている母の死霊が語っていると思われる。) 自分はスーニヤム神やカタラガマ神中心に10人の神々のワラム(能力)をもらうことになっているので自分はそれぞれの神の中心となっている神殿を訪れ、それぞれの神やヤカから約5種類のワラム⁵⁾をいただくための儀礼を行う必要があると語った。

その旅行に十分な金がなかったが、アベナンダが貯金していた金を使用し、2人で神殿を回ることにした。ワラム祈願儀礼を行い戻ってきたルーパーナンダは1979年8月家の近くに小祠を作り、小祠の中に友人から買ってもらった釈迦の絵と自分がワラムをもらった神々の絵を立てかけ、サーストラを語り始めた。ルーパーナンダには母親の死霊が憑き、最初に働くようになったのは相手を懲罰をすることに有名なリーリカダワラヤカのディシテイヤである。ルーパーナンダの最初の儀礼はリーリカダワラの協力を基にし、仲の悪い叔父によってかけられたコディヴィナ全てを無効にし、悪を転送し、呪う儀礼を行い、彼を村から追い出すことである。小祠の来客は周辺の人々で2ヶ月ぐらい経つと1日10人から15人まで来るようになった。ルーパーナンダはサーストラを語り始めてから毎年8月デーヴァーラヤの祭り、3月に死んだ母の記念として10人以上の僧侶を家に招きサーンギーカダーナヤ儀礼を行う。

ルーパーナンダ カプマハタのアールーダヤの過程

アーカルシャナヤ/ディシテイヤというのは人間の体に霊的な存在が憑くという意味で、アールーダというのは憑いた霊が希望どおりにその人間の体を動かせる状況になるという意味である。良い死霊が人に憑いていれば、カプマハタによってその死霊に様々な神々や悪魔のワラムを憑ける儀礼を行うことができる。そうするとその死霊には様々な神々や悪魔の能力で人間を助けることができる。その死霊が人の体に憑いているのでその人にはアールーダ状況になる前に人間として人々の悩みを理解し、アールーダ状況に入った後神霊としてその悩みを神々や悪魔と相談し、神霊のパワーでその人間を助けることができる。その状態になった人をアールーダカプマハタという。

アールーダカプマハタになるための条件

アールーダカプマハタになるためには4の条件がある。

- i. 仏教を深く信仰していること。
- ii. この世に生まれる以前、あの世に在る間に神々と繋がりを持った経験、あるいは神々になっていた経験を生れ付きもっていること。
- iii. 霊的な存在と接触するために当てはまる良い星がかかっていること。
- iv. その人間を助けたい気持ちを持っている死亡した親戚あるいは死亡した知り合いの霊(ブータ)がいること。

ルーパーナンダは以上の4つの条件が整っていた。ルーパーナンダに憑いたのは、母の霊である。ルーパーナンダの体に霊が憑いて

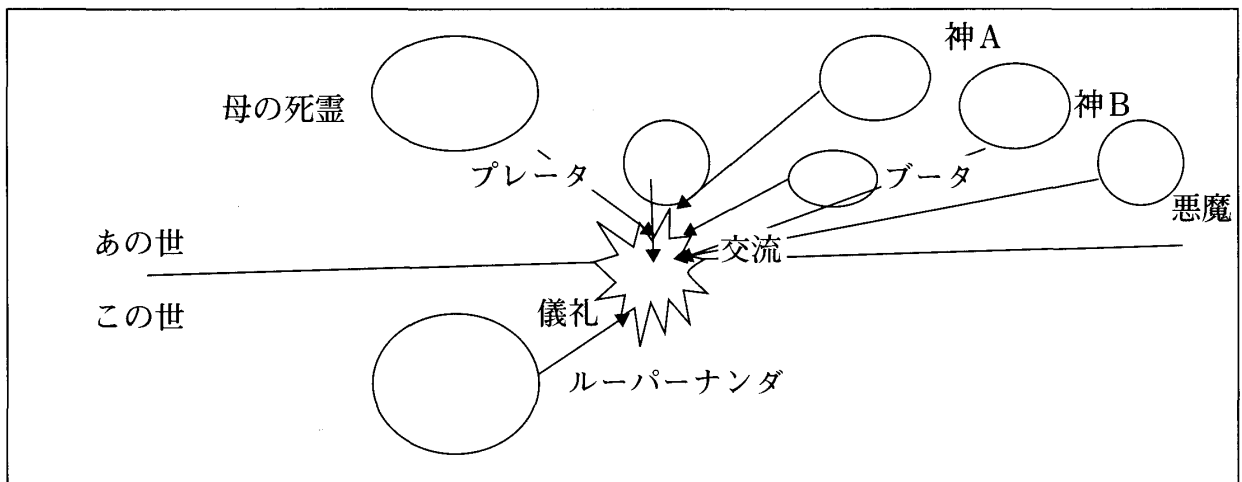
いることに最初に気付いたのは5歳で体が突然震えた時である。2回目は、叔父に追いかかれ、お腹がすいていて金を拾った時である。3回目は、庭に埋められていたコディウイナを夢で見せられた時である。

ルーパーナンダに憑いている母の霊の目的は、自分の周りにいる神霊の助けを受け、苦しんでいるルーパーナンダを幸福にすることである。そのために母の霊はまず、ルーパーナンダを神霊と交流できる状況にする必要がある。穢れのある食べ物などから無理やり遠ざけた。そしてルーパーナンダに現在社会に見られる悩みの多くを解決できる重要な神霊を紹介する。

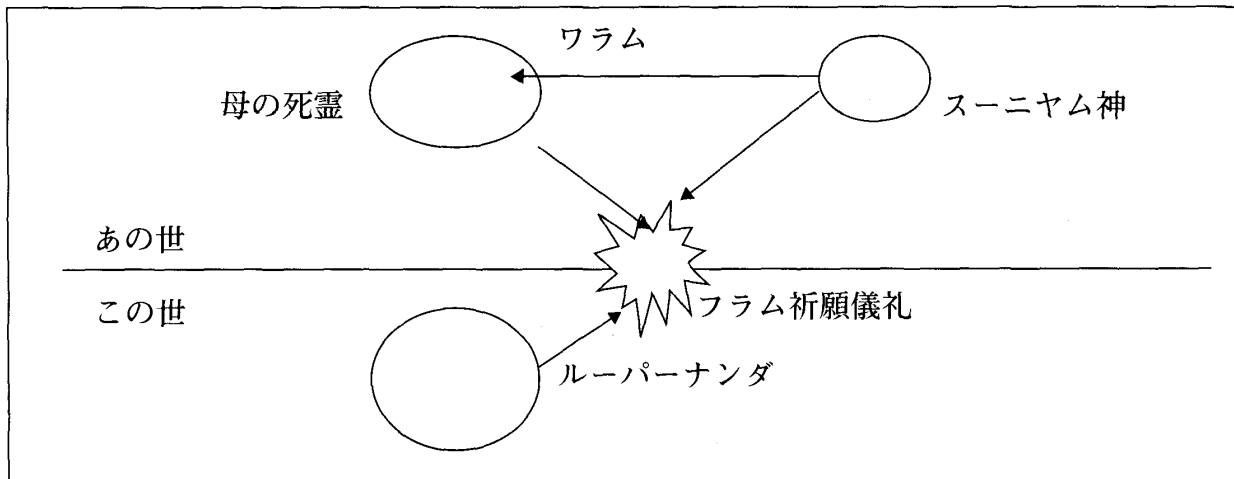
表Iは神霊の序例を示したものであり、ルーパーナンダの母の死霊はその最も低い段階より1つ上の段のブータ（Butha）である。ルーパーナンダは毎年サーンギーカダーナ儀礼を行い、功德をブータ状況にいる母親へ回向する。その礼として母の死霊はルーパーナンダに生業を与えている。その生業はサーストラを語るができる能力や儀礼を行い、クライアントを助けられる能力である。

アールーダカプマハタへのプロセス

- I. 神霊は良い生まれ変わりをするために必要な功德を積むために、人間によって行われる仏教儀礼に参加しなければならない。ルーパーナンダは母親のために行う仏教儀礼に参加するために他の神霊を招待する。功德を積みたい神霊の全てが儀礼に参加する。母親の死霊は自分を主としているこの儀礼という場を利用し、他の神霊と交流し、自分の息子を助けるために他の神霊に祈願し、神々、ヤカあるいは他のブータと自分の息子との間の信頼関係を作る。（図II）
- II. 次の段階は、母親の死霊が神霊から母の死霊にワラムをもらう作業に関わることである。そこで母親の死霊はルーパーナンダにそれぞれの神々やヤカを中心とする神殿を訪れ、供え物をし、仏教儀礼を通して功德を積み、ワラム祈願儀礼を行うことを指導する。それに従い、儀礼を行うことによってルーパーナンダの母親の死霊はそれぞれの神々やヤカのワラムをもらう。（図III）その後母親の死霊にはアールーダ状態に入



図II ルーパーナンダによって行われる仏教儀礼の時母の死霊が他の神霊と交流する



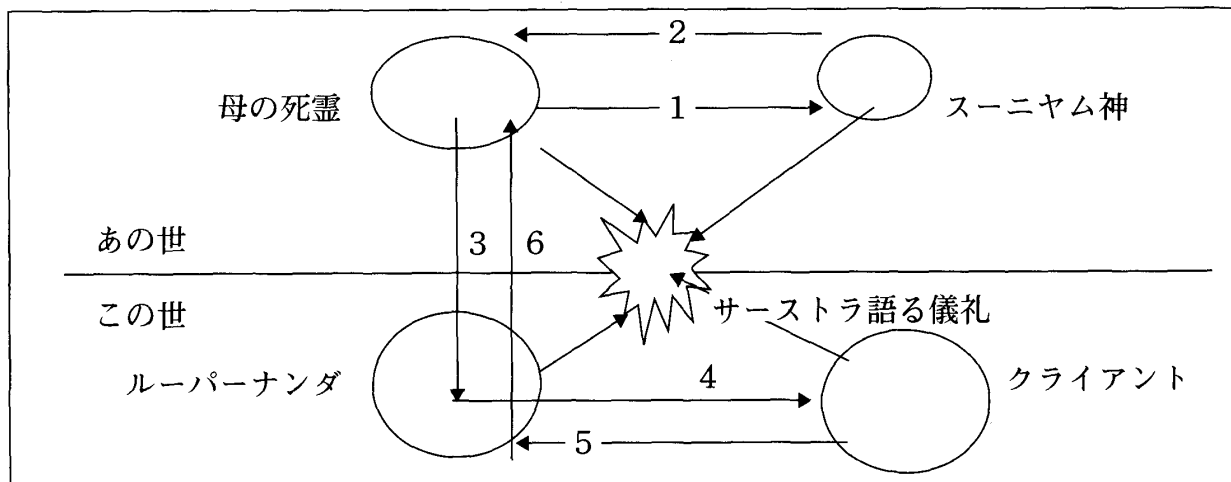
図Ⅲ A神を対象に行われるワラム祈願儀礼

ったルーパーナンダの体と一体となり、サーストラを語り、儀式を通し、クライアントの悩みを解決することができる。ルーパーナンダの母親の死霊はこのように12人の神々のワラムをもらい、人々の様々な悩みを解決する能力を持っている。

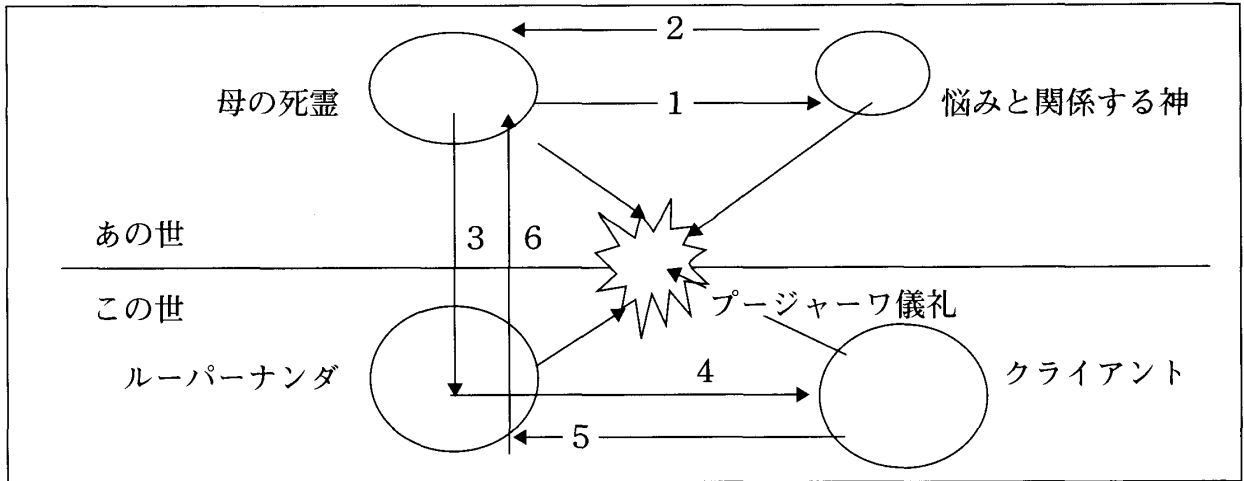
Ⅲ. 小詞を作り、アールダカプマハタとして仕事が始まる。

ルーパーナンダ カプマハタはスーニヤム神を中心にした他の神々を祭るための小祠とリーリカダワラヤカを祭るための小祠という2つの小祠を持っている。クライアントは神々から無病や安全または日常生活における

問題や悩み解決を祈願する。しかし、悪魔には自分を苦しめた相手に復讐するなど、厳しいことを祈願する。そのためルーパーナンダのスーニヤム小祠を尋ねるクライアントは病気、職業の問題、発達の問題、外国にいる親戚の情報を知ること、試験などに合格すること、他の女性を好きになった夫をその女性から引き離すこと、など日常的な悩みを持ってくる。リーリカダワラ小祠を尋ねるクライアントは土地問題、犯罪、殺し合い、批判、かけられたコディヴィナを繰り返す、などの悩みを持ってサーストラを聞き、解決を願う。



図Ⅳ サーストラを語る儀礼



図V 問題解決方法を尋ねるプージャーワ儀礼

サーストラから儀礼へ

サーストラから儀礼への過程は4段階に分けられる。i. サーストラを語る儀礼 ii. プージャーワ儀礼 iii. 治療儀礼 iv. サントーサプージャーワ儀礼

i. サーストラを語る儀礼

ルーパーナンダはサーストラを語る時まず、クライアントから費用、捧げ物で神を供える。そして、全ての神々の像の前に吐いているランプをやり直し、クライアントと共に拝むと同時にアールダ状況に入るルーパーナンダの体に母の死霊アーカルシャナヤが付くクライアントが自分の悩みをアールダカプマハタに語らないという条件があり、アールダカプマハタは死霊と神の能力でクライアントの悩みを語る。(図IV)

1. 母の死霊はクライアントについてスーニヤム神に尋ねる。
2. スーニヤム神は母の死霊にクライアントの悩み、悩みに関係する悩みを解決できる神、について、教え、次回その指定された神を供え、悩み解決方法を尋ねるためにプージャーワ儀礼を行うことを指導する。
3. 4. 母の死霊はスーニヤム神が教えると

おりルーパーナンダの体を通して通訳する。

5. 6. クライアントがルーパーナンダの体に憑いた死霊を通して神と悩みについて相談する。

ii. プージャーワ儀礼

指定された日指導通り準備した上小祠でプージャーワ儀礼が行われる。(図V)

1. クライアントの悩みの原因や解決方法をその問題と関係のあるB神に尋ねる。
2. B神がクライアントの悩みの原因を述べ、解決方法である儀礼の種類をB神が指定し、儀礼構成、準備方法や必要なものを説明する。
3. 4. 母の死霊がルーパーナンダの体を通してクライアントにB神の教えを通訳する。
5. 6. クライアントがルーパーナンダの体に憑いた死霊を通して神と解決方法の相談

iii. 治療儀礼

↓指定された日に儀礼が行われる。従来からのカプマハタ、グルンナーンセ、太鼓たたきを雇い、従来儀礼が行われる。しかし、デイシティヤに指導された通りある部分を減らし、ルーパーナンダがデイシティヤを通し、行う場面をいくつか付け加える。

iv. サントーサプージャーワ儀礼

儀礼の結果が効果的であれば神々に感謝を表すサントーサプージャーワ儀礼を行う。

おわりに

新興呪術師が新しいのか

アールーダカプマハタは従来の呪術師のように代々受け継がれてきた呪術的な知識を持っていないが、神霊のワラムを持った死霊の力で儀礼を行うことができると考えられている。調査対象になった新興呪術師の話によると、アールーダ状況に入ってから儀礼に必要な呪文や歌が自然に口から流れてくる一方、儀礼の構成や内容も神々の能力で決められるのである。しかし、彼らのプロセスや呪術を調べると、その中には従来の呪術師の呪術やシンハラ民俗宗教における仏教的教義を上手く融合した形が現れる。

ルーパーナンダの例を取り上げてみると、死んだ母親の霊がルーパーナンダを助けることができるブータ状況にあるという信仰が仏教の考え方である。人間の死亡1週間後死者の家で行われるマタカダーナ儀礼や3ヵ月後、1年後、2年後という定期的に僧侶を家に招き、食べ物や生活用品を捧げ行われるダーナ儀礼は仏教的である。その儀礼の目的は、一人の人間が死亡し、また人間として生まれ変わるまでの間、ブータやプレータなど立場にいる親戚が良い生まれ変わりができるように功德を重ね回向することである。そうすれば死んだ親戚がプレータ状況にあった場合この世にいる親戚に迷惑をかけない。ブータ状況であれば、その礼としてこの世の親戚を見守り、助けたりするという考えも仏教的な考え方であり、釈迦や菩薩に関する物語の対象にもな

っている。

ヒンズー教やアニミズム的な信仰から仏教に入ってきたといわれている神々や悪魔も仏教の中では釈迦が頂点に位置し、その下の様々な段階に立っている神霊の種類がある。その神々、悪魔、プレータなど神霊が関わっている話が仏教の教えの中に多い。マハーヴァンサによると、仏陀は最初にスリランカのマヒヤンガナ地方に来た時、魔術で火を作り、悪魔達を驚かせた。驚いて命ごいをする悪魔はそれまでの食習慣であった人間の肉を食べることを止めることを条件に許された。しかし悪魔は生きていくために、暗闇に一人でいる人間や孤独な人間に取りついて自分の恐ろしい表情で人々の精神と身体をいたぶり、病氣や不幸を引き起こす。病人の方から行なわれる悪魔祓い儀礼に参加し、そこでもらえる食べ物で満足し病人を治して帰ることを許されたという。〔Mahavamsa. 1960〕従来の呪術師や新興呪術師がこの仏教的な考えに従って悪魔祓いを行うということが以下に分析する悪魔祓い儀礼の大まかな内容を調べると明らかになる。釈迦を拝む行事→神々や悪魔を儀礼場に招待する行事→釈迦と関連した神々や悪魔に関する仏教の教えからの話が歌われる→仏教を保護していることに関して神々や悪魔をほめる歌→神々に花、果物、御菓子などを供え、悪魔に揚げ物、焼き物や酒などを捧げる行事→招待された神霊向けに功德を回向する→患者を病気にさせた悪魔あるいは悪魔たちを呼び、釈迦との約束を思い出させ、患者を解放し、病気を治し、出て行くように命令する→それにその場に招待されている神々の協力も望まれる。→招待された神霊を帰らせる。

従来からの呪術師は代々から受け継がれてきた呪術の能力で無病、幸福や安全を祈願す

る儀礼だけでなく、後から出現する新興呪術師が主に関わっている悪魔、プレートなどを雇い、人を殺したり、怪我をさせたり、災いを起こしたり、病気にさせたり、不幸にし貧乏にしたり、好きになれない人を好きにさせたり、離れさせたりできる儀礼を行うことも可能であった。〔鈴木正崇 1996〕でも検討されているプーナゲシーマ、ガンミリスエンバリーマ、リディーミキーマやシーニガマデボル神殿を中心に行うパリゲシーマなども従来からあった呪い形式を持った儀礼である。しかし、村にいるこのような行為ができる呪術師が悪影響を与えられた側から殺されてしまう時代になった現在では、そのような儀礼を行う従来の呪術師が少なくなった。しかし、新興呪術師は自分の小祠の中で隠れて行う儀礼を通して世界中どこにでもいる人を懲らしめることができるので懲罰を与えられた側から見つかりにくく安全である。

新興呪術師が誕生する以前、呪術師の協力を持たず直接神々や悪魔に捧げ、自分の不平を述べ、悪い相手に罰を与えるように祈願することも一般的であった。そのような行為を専門としていた神々や悪魔が宿っていると信じていた木、岩や祠があった。1944年マーティン・ウィクラマシンハ（スリランカの小説家の前者）に書かれたガンペラリヤ（変わりゆく村）という小説は、スリランカ南部沿岸にあったそのような石灰岩を祭って自分の不平を述べる女性の姿を描きながら始まっている。このような情報から新興呪術師の呪術や儀礼そのものは新しいものではなく、従来の呪術や仏教的教義を含まれた変容だと考えられる。

近代化と新興呪術師

調査対象になった新興呪術師のクライアント

可能な儀礼や特徴	呪術師の種類						
	カプマハタ	グルンナンセ	バリエドラ	アールーダカプマハタ	サーストラカル	アンジャナムカル	ネカットカル
神々が関係している病気の治療儀礼や予防儀礼	○	×	×	○	×	×	×
悪魔や怨霊が起こす病気や災いの治療儀礼や予防儀礼	×	○	×	○	×	×	×
顔を見て病原や治療が分かる	×	×	×	○	○	○	×
星と関係している病気や災いの治療儀礼や予防儀礼	×	×	○	○	×	×	×
日常的に巻き込まれている問題を解決する儀礼	×	○	×	○	×	×	×
ホロスコープを読み、現在当事者に関わっている星やその星と関係する病気や災いを説明し、治療儀礼あるいは予防儀礼を示す	×	×	×	×	×	×	○
治療儀礼あるいは予防儀礼を当事者の自宅でも呪術師の小祠でも行う	×	×	×	○	-	-	-

表Ⅱ 呪術師の種類、可能な儀礼や特徴

トの悩みの中には隣近所からかけられた呪い、中東に出稼ぎの妻から連絡が来ない、夫が他の女性とつきあっている、外国に行くためにビサが取れない、商売が上手くいかない、警察から逮捕された息子に関する情報がないなどより現代社会を反映した以前には見られなかった複雑な問題が含まれていた。従来からの呪術師と新興呪術師の役割や特徴を比較することによって新興呪術師が近代化に合わせた様子が明確になる。(表Ⅱ)

表Ⅱに示した特徴のほかに、新興呪術師が現代社会にとって大切なものとなっているいくつかのポイントがある。

- i. アールーダになった呪術師は人間ではなく神霊のメンバーであり、クライアントにはその神霊を通し、神々と直接交流できる場を作る。
 - ii. 女性新興呪術師も普及しているので女性には安全で気楽に悩みの相談ができ、従来禁止されていた儀礼場に入り、神々と交流できるようになっている。
 - iii. どんな複雑な問題でも解決するための儀礼と方法を呪術師は神に教えてもらえる。
 - iv. 人々は、以前はそれぞれ異なる役割をもつ数人の呪術師を通して行ってもらっていた呪術的儀礼を、1人の新興呪術師を通してできるのでクライアントには時間と出費が節約できる。
 - v. 新興呪術師は特に人間にとって厳しい神々や悪魔あるいは怨霊の協力を得て、呪術的儀礼を行う。その儀礼は敵をこらしめるコディヴィナ儀礼、親しくさせるワシー儀礼、引き離すコディウイナなどである。
 - vi. 治療儀礼あるいは予防儀礼を他人に目立たないように新興呪術師の小祠で行うことができる。
- 今までの調べによるとアールーダカプマハ

タは全く新しい出現ではなく従来からあった呪術や宗教的な様子が近代化の社会変動に応じて形付けられた歩みだと考えられる。独立後からの政治家は単に教育福祉を重視したが、その教育を活かせるような経済的な状況を作ろうとはしなかった。そのため1970年代になると就職の問題とそれに関連した様々な悩みや社会問題が発生した。1960年代は人の教育レベルに適応した就職があった時代である。人々は自分の社会的立場において満足していた。差があっても仏教的な考えに基づき、前世で集めた功德によって現世に生まれているのでそれに満足し、生活した。

1970年代になると人口の増加と共に教育を受けた人々の数も増えた。しかし経済発展が遅れ、十分な職業を得る機会が人々に与えられず、政治家とコネを持っている人だけが利益を得られるという状況であった。教育レベルは同じだが、政治家が媒介のすることによって社会的な格差が大きかった。このように教育を受け不満がたまっていた無職の若者の一部によってJ.V.P運動はじまった。残りは職業を見つけるため神々の協力を求める呪術師を尋ねた。社会体制に不満を抱く若者たちによるJ.V.P運動とその鎮圧の過程が引き起こした社会的不安、さらに統一国民党政府の誕生による自由主義貿易体制への移行と労働形態の変化、中東への出稼ぎ女性に関する問題などがある。社会の変化に対応して人々の間には新たに複雑な神々でしか解決できない問題や悩みが生じてきたのだ。このような、より複雑な問題や悩みを従来からの呪術師は解決できなかったのである。そのような問題に適用できるような能力を用い、人間と神霊が直接交流できるような場を作りながら新興呪術師が誕生したのではないかと考えられる。

注

- 1) コディヴィナ：(人の発展を望まない場合、その人を呪術的な力でヤカやプレータを雇い苦しめ、不幸にさせられる儀礼)。
- 2) コディヴィナケピーマ：掛けられたコディヴィナの影響を無効にし、悪を転送する儀礼。
- 3) タニカムドーサ：人間が1人ぼっちで道を歩いている時、揚げ物や肉などを食べる時悪魔やプレータに見かけた場合、人がその悪魔あるいはプレータのその時での姿を見て、あるいは音を聞き、驚いた場合、病気になるとその人がタニカムドーサにかかったという。しかし、その人の星関係(運命)が悪くなければタニカムドーサにかからない。その病気を治すためにはグルンナーンセによって見かけた悪魔を認識し、悪魔祓い儀礼を行わなければならない。
- 4) アーカルシャナヤ：人間の体に霊的な存在が憑くこと。
- 5) 5種類のワラム： i. ムカワラム (自然にサーストラが語れる口の能力) ii. バラワラム (人々に取り憑き、災いを起こす様々なヤカや霊的な存在を支配し追い払える能力) iii. マントラワラム (様々な儀礼が必要とする呪文を自然に語れる能力) iv. ヤントラワラム (様々な儀礼では呪文や絵を書く場面があるのでそれをきれいに書ける能力) v. ナーナワラム (人々の悩みを理解し、指導できる知識の能力である)。

参考文献

Ariyapala, M. B., 1956 *Society in mediavil Ceylon*, Colombo: Department of Cultural

Affairs.

- Adikaram, E. W., 1946 *Early History Of Buddhism in Ceylon* Colombo, Gunasena Press.
- Arasaratnam, S., 1969 *Dutch Power in Ceylon*, Colombo Government Press.
- Callaway, J. (trans), 1829 *Yakkun Nattanawa: Cingales Poem, Descriptive of the Ceylon System of Demonology; and Kolam Nattanawa: A Cingalese Poem, Descriptive of the Characters Assumed by Natives of Ceylon in Masquerade*. London.
- Census of Population and Housing, 2001-Sri-Lanka と Statistical Profile (1999) Karandeniya D.S.Division.
- Darmadasa, K.N.O., and Tundeniya, H.M.S., 1994. *Shinnhala Deva Puranaya*. Colombo Government Press.
- Gombrich, R. & Obeyesekere G., 1988. *Buddhism Transformed* Princeton University Press.
- Gunasekera, U., 1953 *Puna Maduwa or the Scapegoat idea in Ceylon Spolia Zeylanica*, 1
- Kapferer, B., 1983 *A Celebration of Demons: Exorcism and Aesthetics of Healing in Sri Lanka* Bloomington: Indiana University Press.
- Knox, R., 1681 *An Historical Relation of Ceylon* *Ceylon Historical Journal* vol. VI , 1956. Maharama Saman Press.
- Mahavamsa*, 1960 (The Great Chronicle of Ceylon), Translated by Geiger, W., Colombo: The Government Information Department. Colombo, A.N.C.L
- Obeyesekere, G., 1984 *The Cult Of the Goddess Pattini* The University Of Chicago Press

- Chicago-London.
- Obeyesekere, G., 1982 *Social Change and the Deities: The Rise of Kataragama Cult in Modern Sri Lanka*. Madras, New Era Publications.
- Obeyesekere, G., 1981 *Madusa's Hair: An Essay on Personal Symbols and Religious Experience*. The University Of Chicago Press Chicago-London.
- Pertold, O., 1930 *Ceremonial Dances of Sinhales: An Inquiry into Sinhales Folk Religion*, Dehiwala (Sri Lanka), Tisara Prakasakayo LTD.
- Paranavitana, S., 1929 "Pre-Buddhist Religious Beliefs in Ceylon", *Journal of the Royal Asiatic Society of the Ceylon Branch*, 31(82).
- Paranavitana, S., 1960 "The Civilization of the Period: Religion" *History of Ceylon*, Vol.1., The University Of Ceylon Press.
- Sarachchandra, E.R., 1952 *The Folk Drama of Ceylon* Colombo: Department of Cultural Affairs.
- Sarachchandra, E.R., 1968 *Sinhala Gemi Natakaya* Colombo: Department of Cultural Affairs.
- Siripala, N., 2002 *Karandeniya Puranaya*. Nugegoda:Piyasiri Printing Systems.
- Silva, D.A.P., 2000 *Globalization and the Transformation of Planetary Rituals in Southern Sri-Lanka*. Colombo: Unie Arts Press.
- Sorata, A., 1993 *Kataragama Puda Sirit*. Rattanapitiya, Ajith Press.
- Spencer, J., 1990 *A Sinhala Village in a Time of Trouble: Politics and Change in Rural Sri Lanka*. Delhi, Oxford University Press.
- Wijayasriwardana, V., 1996 *Lakdiwa Preta Sankalpaye Vikasanaya*. Chstura Press.
- Yalman, N., 1967 *Under The Bo Tree: Studies in Cast, Kinship and Marriage in Interior of Ceylon*. California, University of California Press.
- 上田紀行 1990 『スリランカの悪魔祓い』 徳間書店
- 渋谷利雄 1985 「スリランカの民族問題の歴史的背景」『アジア・アフリカ言語文化研究』東京、外国語大学アジア・アフリカ言語文化所30号
- 渋谷利雄 1988 『祭りと社会変動－スリランカの儀礼劇と民族紛争』東京、同文館
- 杉本良男 1985 「キャンディ、ペラヘラ祭りとワリヤク祭祀」白島芳太郎、倉田勇編『宗教的統合の諸相』南山大学人類学研究所
- 杉本良男 1988 「花と山地とマラバールー スリランカ、ウダラタのコホンバーカンカーリ儀礼」白島芳太郎、杉本良男編『伝統宗教と社会・政治統合』南山大学人類学研究所
- 杉本良男 1989 「シンハラ星辰論」『アカデミア 人文・社会科学編』（南山大学）50号
- 杉本良男 1990 「裏表護呪経儀礼－スリランカ、ウダラタのピリット」『アカデミア 人文・社会科学編』（南山大学）51号
- 鈴木正崇 1996 『スリランカの宗教と社会文化人類学的考察』春秋社